



一隅を照らそう
5月号

376号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



花

住職 中島 有淳

本年も当山の「つつじ」が美しく咲きました。感謝です。寺の掲示板には「花一輪の大宇宙」と書いて参拝者をお迎えしました。花は茎や根っこがあつてこそ咲くわけですが、外にも季節の雨や太陽など天候や環境も大切で、全て縁によつて咲いて、私達を喜ばせてくれるのです。

『拈華微笑』というお話

昔、お釈迦さまがインドの靈鷲山という山でお説法をしておられたときです。ある日、参拝者の一人がお釈迦さまに一本の花をさし上げました。お釈迦さまはその花を黙ってみんなに見せ、一言も発せられません。人々はポカンとしています。その時、迦葉尊者というお弟子だけが、静かに微笑みしました。それを見たお釈迦さまは「わたしの世界の見方、人生の意味、文字や言葉で表せない心の教えをいま、迦葉に伝えた」と。人生の意味や不思議な事実がこうして静かに微笑のうちに伝えられたこの故事は有名です。

女 あり
二人往く
若きはうるわし
老いたるは
なお うるわし
ホイットマン

何といつても若さには適いません。若さはそれだけで美しいのです。しかし、ホイットマンは若さの美しさを認めつつ「老いたるはなおうるわし」と言い切ります。若いということはそれだけで瑞々しく美しい。しかし、老いの美しさは丹精の美しさで、古いものの値打ちであります。

明日
はきだめに
えんどう豆咲き
どろ池から
はすの花が育つ
人みなに
美しき種子あり
明日
何が咲くか
安積得也

人が生まれるのは決して偶然ではありません。縁なのです。みな仏さまから頼まれて生まれてくるのです。その中に答えがあり、それが仏さまのいのちなのです。

一輪の朝顔よ
ここに
生きた瞬間がある
生くることの尊さがある
山村暮鳥

※本稿は松原泰道著『法華経のこころ』を参照しました。

折りふしのはな

たけのこ
小さい頃
近所の人達が
大勢集まり
裏山で採れた
筍を 母が
みそ仕立てに
し振る舞い
「お寺の筍は
おいしいね」
なんて
にぎやかに
父のアコー
デオンで
歌い 酔い
あの頃の音や
香りまでもが
鮮明に蘇る
たけのこを湯がく
宵
(遊)

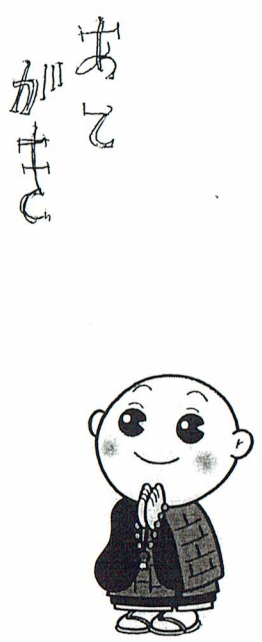


五月行事案内

- ◎五月八日 午後二時
薬師如来大護摩供修行
- ◎五月十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
- ◎五月十八日 午後二時
観音経読誦法要(於・神木観音堂)
- ◎五月二十八日 午後二時
不動明王大護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
*都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

ご希望の方には
お札を授与しております



○ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇が四月二十一日に死去(88才)。バチカンでの葬儀には多数の参列者によって「清貧」を貫き平和を求めた教皇に別れを告げた。

○米トランプ大統領の関税施策が世界中を大きくゆるがしています。経済問題がいまや戦争の如く報道され、実際の戦争も先が見えません。分断の深刻は複雑化していくようです。

○大阪・関西万博が四月十三日開幕。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに十月十三日迄の一八四日間人工島「夢洲」を会場に開催。分断の多い国際社会に一六〇を超える種々な参加国が集い交わる。

○五月は例年の如く「ご巡行」が実施されます。當山のお不動様が近隣に出開帳する古くからの風習です。御世話人各家皆様、本年もよろしくお願い致します。その「ご巡行」を描くドキュメンタリー映画『旅する不動明王』の製作は鋭意進行中。今夏の完成予定です。(副住職)

○お米をはじめ物価高が収まりません。関連して全ての食品、製品、物流、工業…といった値が上がりました。世の中がクシャミすると風邪をひきませんようにお大事に。

合掌